

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192500029		
法人名	社会福祉法人 善心会		
事業所名	グループホーム りんどう 葵		
所在地	岐阜県安八郡神戸町北一色555番地の1		
自己評価作成日	平成29年9月 1日	評価結果市町村受理日	平成29年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detai1_2017_022_kani%20true&amp;ji_gyosyoCd=2192500029-00&amp;PfCd=21&amp;Ver:si_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detai1_2017_022_kani%20true&amp;ji_gyosyoCd=2192500029-00&amp;PfCd=21&amp;Ver:si_onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成29年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「夢 感動 笑空間 小さな夢の実現も大きな感動へ つなげよう笑顔で安心できる空間作りを目指します」を理念とし利用者、家族、友人、地域、職員と交流を大切に、笑顔になって頂けるように日々の生活の中でお互いできる事を協力し合い持っている力を発揮して頂けるよう支援に努めています。近くの小学生とのふれあいや近所のゴミ拾いを兼ねたあいさつ活動を行い、寺カフェに参加し気分転換や地域の方とのコミュニケーションを目的に喫茶店へ行く事にも取組み始め好評を頂いています。明るく優しい職員と共に笑顔で過ごして頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所独自の理念を作り、全員で話し合っただけの介護に活かしている。利用者の思いを聞いて、本人が過ごしやすい毎日が送れるように支援している。職員は地域との交流をめざし『地域共生委員会』を作り利用者と一緒に駅の清掃や地域の催事に参加している。本人の思いを大切に身体状況が危ぶまれても家族とリスクについて話し合い、外出や食事など家族の協力をえて思いを実現している。災害時には、認知症の人を受け入れる用意があることを地域に伝えている。近くのお寺で開かれる認知症カフェ『お寺カフェ』に参加している。またお寺からは雅楽の演奏の訪問がある。職員の子どものための訪問や保育園・幼稚園との交流があり、地域と一緒に歩もうとしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目の届くところに掲示し、自分たちの目標とすべき姿を共有している 話し合いの場でも話題にし利用者の声に耳を傾け、要望に沿える様にしている	会議などの場で、理念を実践出来るように話し合っている。職員は理念に沿って、明るい気持ちで利用者と笑いあえるように心がけ、過ごしやすい生活が送れるように本人の思いを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	りんどう周辺や北神戸駅周辺のクリーン活動を利用者、職員で行い地域の方に挨拶などをして交流し出来ている。地域共生委員会の立ち上げで、これから地域との交流が益々増えると思われる	職員は地域交流を目的に『地域共生委員会』をつくり、利用者と一緒に駅の清掃等に出かけている。認知症カフェをしている寺から、雅楽の演奏をしてもらったり、幼稚園児の訪問があったりする。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の認知症カフェ(ローズカフェ)や寺カフェに参加し、りんどうの説明や認知症の理解や介助、支援方法を伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で状況の報告や、利用者様や家族様、地域の方の意見を聞き話し合いを行いサービス向上につなげていけるよう努めている 利用者様にも会議へ参加して頂き感想などを話して頂いている	利用者家族や民生委員の参加がある。会議の中で、メンバーから工事中で危険な道があるなどの地域の情報を得たり、報告書の書式を変えたほうが報告し易いなどの意見をもったりして意見を取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の福祉課や地域包括へも相談し、意見を頂いている 運営推進会議や認知症カフェ(ローズカフェ)寺カフェに参加させて頂き情報を共有させて頂いている。地域連携のための多職種会議に参加、情報交換している	認知症の人を街で見かけたとの情報や、近所の人から得た独居や高齢所帯の問題などを市町村と話し合っている。地域の高齢化に伴う情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で具体例をあげ禁止行為や身体拘束を学び生活の場で活かしている。利用者が行きたい所に一緒に付き添うように行っている。身体拘束をしない事を原則とし、定期的に話し合いを行っている 声掛けによる拘束にならない様に注意している	身体拘束について勉強会等で話し合い、家族にも方針を説明している。2階ベランダに出ても歩きまわる人に、生活歴を理解し職員が見守ることで、鍵をかけたり行動を禁止しないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	合同勉強会で人権について学んだり、職員会議時にも注意を払っている 又入浴時にはボディチェックをし早期発見に努めている 高齢者施設における虐待研修に参加し学んでいる		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護推進員養成研修に参加し施設内で学んだことを広めている 成年後見制度活用に繋げる支援体制は出来ている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を行い、利用後も不安や疑問など尋ねる事ができるような環境がある		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者、家族に参加してもらい意見や指導を頂いている。御意見箱の設置や家族面談の中でも聞いている 運営推進会議議事録や外部評価結果はエレベータホールに置いてあり観覧できるようにしてある	家族の面会時に、細かく情報を伝えることで話しやすい関係を築いている。そのほか職員は介護計画説明時にも、どんな小さなことでもいいからと伝え、意見や希望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のリーダー会や全体会議の場で意見や提案を議題にあげくみ取る様にしている。年2回の自己評価時個別面談を行い、意見を聴き対応している	管理者は会議で職員意見を聞いたり、普段から個別に話を聞いたりしている。話しやすい雰囲気心がけ、直接同じ勤務に入ることによって現状を理解している。職員は勤務変更の希望を伝え管理者は対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、実績や勤務状況を反映している。内外の研修へは出来るだけ参加し、スタッフの向上心に繋がるように働きかけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員の育成研修に重点を置き、個々に合った指導を行っている。資格取得時には支援制度もあり経済面での不安軽減に努めている。働きながら育成のトレーニングになっていると感じる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症カフェ、寺カフェでは近隣のグループホームと情報交換や交流している 3か月に一度勉強会があり、改めて学ぶことがある		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に利用者の声に耳を傾け、不安な事や希望、要望を聞き本人と話をしながら不安や要望を理解し安心していただける様に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時に家族面談により情報を聴き、納得したサービスを利用していただける様に支援している 家族から言われたことは職員間で共有しケアマネにも伝えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からの聞き取った情報から、必要な支援を検討し、納得したサービスを利用していただける様に支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常会話をはじめ、食事の盛り付け・片付け・皿洗い・洗濯たみ・掃除・居室内の片付けシーツ交換など個々に合った暮らしの手伝いをしてもらっている 記録物も同じテーブルで記入するようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、最近の様子を伝え施設内での生活の様子を知って頂ける様にしている。ケース記録を閲覧して頂ける家族様もおられる。外出・外泊が出来る支援を考え実行し、家族との関係が継続出来ている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他の事業所を利用されている方に会いに行ったり事業所の枠を超えて馴染みの関係が継続されている。知人や兄弟の方などの面会もある	利用者との会話の中で馴染みの店などを聞いている。これまで利用していた美容院へ行ったり、町内会の人とのつながりを大切に、同じ法人内の他の事業所へ友人を訪ねられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を日常会話等から理解し、座席等に配慮している。会話の難しい方には、職員が間に入ったり、書いて伝える等の橋渡しを行っている 他の家族と一緒に喫茶店へ出かける方もあった		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方の通夜、葬儀に参列させて頂いている。亡くなられた方の家族様より落ち着いたらボランティアに来たいと言われており関係が継続している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から情報を収集したり本人の訴えを傾聴したりしている。本人の望む生活に必要な時は、家族様への働きかけも行っている。笑顔になれるポイントを身に付ける様に努めている	家族から情報を得たり、日常の様子を見たりして把握している。口から食べたいという本人の思いを家族から聞き、身体状況から口からの食事の困難さについて話し合い、理解を得て実現に向けて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時には馴染みの物を持参して頂いている。アセスメントや昔の話を聞き、これまでの生活の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	意志が伝えられる方には望む生活より少し活動的にして頂ける様に支援している。伝えることが困難な方には、一緒に作業する事から始め、今出来る事を維持できる様に支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやカンファレンス、グループ会での話し合いの中で意見交換し介護計画につなげている。利用者本人の気持ちを聞き個別支援に努めている	介護記録を見て、一緒に計画作成担当者が話し合っている。計画の変更などはその都度家族に意見を求め、3か月に1回は訪問してもらい了解を得ている。計画については本人にも説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別記録に残し、申し送りノートや日誌を活用し、情報共有し実践に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能・特養とも連携し利用者や職員が行き来できるよう支援している。		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生の訪問、子供会の訪問があり、施設の説明や生活の流れなどを知って頂き小学生、教師、利用者、職員とも顔見知りの関係が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診やかかりつけ医をうまく組み合わせ支援している。かかりつけ医受診時には、情報提供し指示を仰いでいる	本人や家族の希望によりかかりつけ医や事業所の協力医を受診できる。かかりつけ医受診時に医療情報提供書を家族へ渡し、事業所と医師との間で情報交換を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	発熱時、急変時、怪我等日頃と違う様子の時は早急に看護師へ報告している。看護師より担当医、家族に報告し適切に治療に繋がっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院の医師、看護師、ケースワーカーと情報交換している。入院中は家族や看護師から経過を聞き、情報交換を行い早期に退院できる様に良い関係づくりに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時やターミナルに近づいた時にも再度確認を取っている。終末期をどのように迎えたいかを家族様と本人の意向を伺い、看取りの説明も行い、希望に沿った対応をしている。	状態変化の度に家族へ報告し、重度化や終末期が考えられる場合は、その都度本人・家族と話し合いをして看取りを行っている。本人・家族の希望があれば、特養入所の紹介や病院入院などを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や状態の変化等は、夜間もオンコール体制により、看護師に指示を仰ぐ事が出来、必要時には看護師が対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、職員が避難経路を把握し、スムーズに避難できる様にしている。地域の消防団の方の施設見学を行う事が出来た 新人職員が訓練に参加して訓練の基礎を学んでいる	夜間想定訓練を含め年2回の避難訓練を実施している。同一法人内の事業所間での協力や緊急連絡体制を整備しているが、近隣支援による協力体制が十分ではない。	災害時に地域協力体制は大切なので、避難訓練への参加を呼びかけたり、運営推進会議での議題にしたりする等、近隣の人々との協力体制を築いてほしい。

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや接し方についてグループ会で話し合い、個々の尊厳を大切に言葉かけや対応に気をつけている。居室内で個々に話を聞くことも大切にしている	職員は利用者の尊厳を大切に考え、言葉遣いなど接し方に気をつけている。安全性に配慮しながら、入浴や排泄時のプライバシーの確保に注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がどうしたいかの気持ちを聞き出すようにしている。飲み物や着たい服を選んでもらっている。会話で表現の難しい方にはしばらく様子見し、見極めてから思いを伺う様働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿うよう柔軟な姿勢で対応し、個々のペースや生活リズムで過ごしてもらっている。人手が少ない時には職員の都合で対応してしまうことがある。体調に合わせて休んで頂くときもある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が着ていた服を家族が持参され、気に入った物を自分で選んで着ていただいている。季節ごとの入れ替えは家族に協力してもらっている。月2回の理美容で毛染め、パーマ等にも対応している。馴染みの美容院へ行かれる方もある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合ったメニューや行事食をとり入れ、盛り付け等一緒に行っている。食べられないものは、出来るだけ他のもので対応している。また、出来るだけ普通食が食べられる様に支援している	利用者はおやつ作りや、米研ぎ、盛り付け等をしている。食事前にはテレビを消し、食事に集中できる配慮や、希望があれば晩酌もできる。職員と一緒に食卓を囲むことが無く利用者だけの食事となっている。	自宅にいるように、同じテーブルにつき同じ食材を食べそれを話題にするなど、家族が一堂に集まる楽しい食事のような雰囲気づくりを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の体重測定や毎食の摂取量や摂取状況を把握している。状態状況を見極めて提供している。水分摂取に努め、好物を家族に持参してもらう事もある		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方には歯磨きや義歯を洗ってもらっている。毎食後に歯間ブラシや歯ブラシ等で口腔ケアを行っている。必要時や希望時には、歯科往診や受診に繋げている		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分・食事・排便・排尿等を確認し、排泄パターンを知り、ADLや認知力に応じた支援をしている。日中はトイレでの排泄を基本とし、二人介助や誘導時間を考慮し個々にあった対応を行っている	利用者の行動や様子から個々の排泄パターンを知り、本人の意思を尊重してトイレ排泄を支援している。車いすの人へは二人介助で行ったり、男性の立っての排泄習慣に応えたりするなどの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1200mlを目標に水分摂取をすすめユニットごとの一日水分平均を出している。出来るだけ普通食を食べて貰えるように支援している。散歩・体操やヨーグルト・食物繊維製品の個人購入などにより下剤に頼らない取り組みをしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴可能な曜日、時間は決まっているが、湯の温度や入るタイミングは出来るだけ希望に沿う様にしている ゆず湯や音楽を聴きながらの入浴なども行っている	利用者の気分により入浴日の変更をしている。1番風呂や長湯、希望の湯温、入浴剤等希望に合わせて入浴出来る。介助する職員と一緒に歌を歌いながら、入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や希望時、体調に応じて休んでもらっている。週に1回と汚染時にはシーツ交換、年2回布団の入れ替えを行っている。使い慣れた枕や毛布等も持参し使用されている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の追加があれば申し送り日頃との変化があればケース記入し情報を共有し合っている。個人ファイルで薬に関する説明書等がいつでも確認できるようになっている。看護師が管理、指導を行い症状変化時は報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや盛り付け、米研ぎ等出来る事を一緒に行ってもらっている。おやつや買い物も一緒に出かけている。歌謡ショー、散歩や喫茶店へも出かけて気分転換してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を家族に伝え、外出や外泊に繋げている。近所の喫茶店へも出かけている。職員とゴミ捨てにも出かけて本人の役割をもって頂いている。一人で小規模多機能へ遊びに行かれる方もいる。	事業所前にある喫茶店へ出かけたり、家族の協力で、(淡水魚)水族館へ出かけたりしている。近くの寺が『お寺カフェ』を開催する時には参加し、季節により初詣、桜やバラ、菖蒲などを見に出かけている。	



グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動スーパーの販売を取り入れ自分のお金で好みの物、必要な物を購入して頂いている。基本は個人のお金は事務所で預かり、希望の物があれば購入している。小銭をご自分で管理されているかたもある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日の時に誕生会の写真を撮り家族様に葉書きを送り誕生会の報告をさせて頂いている。字が書ける方は日頃の感謝を葉書きに書く方もおられました		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こまめに掃除を行い、換気や温度管理には注意を払っている。月に合わせて季節感を感じられる様な飾り付けも行っている。	毎月利用者が季節の貼り絵を作成し、壁に飾っている。廊下にはハロウインの置物がある。食事時には炊飯の香りが立ち、ほうきや塵取りを用意し、生活感を感じてもらえるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子を配置し何処にでも座れる様に気を配っている。ソファーで利用者同士で編み物をされていることもある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を自宅から継続して使ってもらっている。自宅と同じような配置を心掛けている。家族との写真も飾って心地よく過ごされておられる	家族写真や、娘が持ってきてくれた花を飾り、時計、自宅で愛用の枕、鏡等が居室に置いてある。希望によってタンスを持ち込み、畳の希望があれば使う事が出来る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干しや盛り付け等出来る事は一緒に行ってもらっているため、動線に障害物を置かないように気を付け、環境整備に気をつけている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192500029		
法人名	社会福祉法人 善心会		
事業所名	グループホーム りんどう 橙		
所在地	岐阜県安八郡神戸町北一色555-1		
自己評価作成日	平成29年9月 1日	評価結果市町村受理日	平成29年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detai1_2017_022_kani%27rue&amp;ji_gvosyoCd=2192500029-00&amp;PrEfCd=21&amp;VerSionCd=022">http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detai1_2017_022_kani%27rue&amp;ji_gvosyoCd=2192500029-00&amp;PrEfCd=21&amp;VerSionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「夢 感動 笑空間 小さな夢の実現も大きな感動へ つなげよう笑顔で安心できる空間作りを目指します」を理念とし利用者、家族、友人、地域、職員と交流を大切に、笑顔になって頂けるように日々の生活の中でお互いできる事を協力し合い持っている力を発揮して頂けるよう支援に努めています。近くの小学生とのふれあいや近所のゴミ拾いを兼ねたあいさつ活動を行い、寺カフェに参加気分転換や地域の方とのコミュニケーションを目的に喫茶店へ行く事にも取組み始め好評を頂いています。明るく優しい職員と共に笑顔で過ごして頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目の届くところに掲示し、自分たちの目標とすべき姿を共有している 話し合いの場でも話題にし利用者の声に耳を傾け、要望に沿える様にしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	りんどう周辺や北神戸駅周辺のクリーン活動を利用者、職員で行い地域の方に挨拶などをし交流し出来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の認知症カフェ(ローズカフェ)や寺カフェに参加し、りんどうの説明や認知症の理解や介助、支援方法を伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で状況の報告や、利用者様や家族様、地域の方の意見を聞き話し合いを行いサービス向上につなげていけるよう努めている 利用者様にも会議へ参加して頂き感想などを話して頂いている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の福祉課や地域包括へも相談し、意見を頂いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で具体例をあげ禁止行為や身体拘束を学び生活の場で活かしている。利用者が行きたい所に一緒に付き添うように行っている。身体拘束をしない事を原則とし、定期的に話し合いを行っている 声掛けによる拘束にならない様に注意している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	合同勉強会で人権について学んだり、職員会議時にも注意を払っている。 又入浴時にはボディチェックをし早期発見に努めている。研修に参加した職員からの伝達講習を受けている		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護推進員養成研修に参加し施設内で学んだことを広めている 成年後見制度活用に繋げる支援体制は出来ている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を行い、利用後も不安や疑問など尋ねる事ができるような環境がある		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者、家族に参加してもらい意見や指導を頂いている。御意見箱の設置や家族面談の中でも聞いている 運営推進会議議事録や外部評価結果はエレベータホールに置いてあり観覧できるようにしてある		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のリーダー会や全体会議の場で意見や提案を議題にあげきみ取る様にしている。年2回の自己評価時個別面談を行い、意見を聴き対応している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、実績や勤務状況を反映している。内外の研修へは出来るだけ参加し、スタッフの向上心に繋がるように働きかけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員の育成研修に重点を置き、個々に合った指導を行っている。資格取得時には支援制度もあり経済面での不安軽減に努めている。働きながら育成のトレーニングになっていると感じる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症カフェ、寺カフェでは近隣のグループホームと情報交換や交流している 3か月に一度勉強会があり、改めて学ぶことがある		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に利用者の声に耳を傾け、不安な事や希望、要望を聞き本人と話をしながら不安や要望を理解し安心していただける様に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時に家族面談により情報を聴き、納得したサービスを利用していただける様に支援している 家族から言われたことは職員間で共有しケアマネにも伝えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からの聞き取った情報から、必要な支援を検討し、納得したサービスを利用していただける様に支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常会話をはじめ、食事の盛り付け・片付け・皿洗い・洗濯たみ・掃除・居室内の片付けシーツ交換など個々に合った暮らしの手伝いをしてもらっている 記録物も同じテーブルで記入するようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、最近の様子を伝え施設内での生活の様子を知って頂ける様にしている。ケース記録を閲覧して頂ける家族様もおられる。外出・外泊が出来る支援を考え実行し、家族との関係が継続出来ている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他の事業所を利用されている方に会いに行ったり事業所の枠を超えて馴染みの関係が継続されている。知人や兄弟の方などの面会もある 自宅に帰り近所の方との交流もしてこられている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を日常会話等から理解し、座席等に配慮している。会話の難しい方には、職員が間に入ったり、書いて伝える等の橋渡しを行っている 他の家族と一緒に喫茶店へ出かける方もあった		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方の通夜、葬儀に参列させて頂いている。亡くなられた方の家族様より落ち着いたらボランティアに来たいと言われており関係が継続している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から情報を収集したり本人の訴えを傾聴したりしている。本人の望む生活に必要な時は、家族様への働きかけも行っている。笑顔になれるポイントを身に付ける様に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時には馴染みの物を持参して頂いている。アセスメントや昔の話を聞き、これまでの生活の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	意志が伝えられる方には望む生活より少し活動的にして頂ける様に支援している。伝えることが困難な方には、一緒に作業する事から始め、今出来る事を維持できる様に支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやカンファレンス、グループ会での話し合いの中で意見交換し介護計画につなげている。利用者本人の気持ちを聞き個別支援に努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別記録に残し、申し送りノートや日誌を活用し、情報共有し実践に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能・特養とも連携し利用者や職員が行き来できるよう支援している。		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生の訪問、子供会の訪問があり、施設の説明や生活の流れなどを知って頂き小学生、教師、利用者、職員とも顔見知りの関係が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診やかかりつけ医をうまく組み合わせて支援している。かかりつけ医受診時には、情報提供し指示を仰いでいる		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	発熱時、急変時、怪我等日頃と違う様子の時は早急に看護師へ報告している。看護師より担当医、家族に報告し適切に治療に繋がっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院の医師、看護師、ケースワーカーと情報交換している。入院中は家族や看護師から経過を聞き、情報交換を行い早期に退院できる様に良い関係づくりに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時やターミナルに近づいた時にも再度確認を取っている。終末期をどのように迎えたいかを家族様と本人の意向を伺い、看取りの説明も行い、希望に沿った対応をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や状態の変化等は、夜間もオンコール体制により、看護師に指示を仰ぐ事が出来、必要時には看護師が対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、職員が避難経路を把握し、スムーズに避難できる様にしている。地域の消防団の方の施設見学を行う事が出来た 新人職員が訓練に参加して訓練の基礎を学んでいる		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや接し方についてグループ会で話し合い、個々の尊厳を大切に言葉かけや対応に気をつけている。居室内で個々に話を聞くことも大切にしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がどうしたいかの気持ちを聞き出すようにしている。飲み物や着たい服を選んでもらっている。会話で表現の難しい方にはしばらく様子見し、見極めてから思いを伺う様働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿うよう柔軟な姿勢で対応し、個々のペースや生活リズムで過ごしてもらっている。人手が少ない時には職員の都合で対応してしまうことがある。体調に合わせて休んで頂くときもある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が着ていた服を家族が持参され、気に入った物を自分で選んで着ていただいている。季節ごとの入れ替えは家族に協力してもらっている。月2回の理美容で毛染めやパーマ等にも対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合ったメニューや行事食をとり入れ、盛り付け等一緒に行っている。食べられないものは、出来るだけ他のもので対応している。また、出来るだけ普通食が食べられる様に支援している。メニューを利用者に紹介して頂くこともある		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の体重測定や毎食の摂取量や摂取状況を把握している。状態状況を見極めて提供している。水分摂取に努め、好物を家族に持参してもらう事もある		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方には歯磨きや義歯を洗ってもらうようにしている。毎食後に歯間ブラシや歯ブラシ等で口腔ケアを行っている。必要時や希望時には、歯科往診や受診に繋げている		



グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分・食事・排便・排尿等を確認し、排泄パターンを知り、ADLや認知力に応じた支援をしている。日中はトイレでの排泄を基本とし、二人介助や誘導時間を考慮した対応を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1200mlを目標に水分摂取をすすめユニットごとの一日水分平均を出している。出来るだけ普通食を食べて貰えるように支援している。散歩・体操やヨーグルト・食物繊維製品の個人購入などにより下剤に頼らない取り組みをしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴可能な曜日、時間は決まっているが、湯の温度や入るタイミングは出来るだけ希望に沿う様にしている ゆず湯やしょうぶ湯、音楽を聴きながらの入浴なども行い楽しめる空間を作っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や希望時、体調に応じて休んでもらっている。週に1回と汚染時にはシーツ交換、年2回布団の入れ替えを行っている。使い慣れた枕や毛布等も持参し使用されている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の追加があれば申し送り日頃との変化があればケース記入し情報を共有し合っている。個人ファイルで薬に関する説明書等がいつでも確認できるようになっている。看護師が管理、指導を行い症状変化時は報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや盛り付け、米研ぎ等出来る事を一緒に行ってもらっている。おやつや買い物も一緒に出かけている。散歩や喫茶店へも出かけて気分転換してもらっている。自宅への外出もされておられる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を家族に伝え、外出や外泊に繋げている。近所の喫茶店へも出かけている。職員とゴミ捨てにも出かけて本人の役割をもって頂いている。一人で小規模多機能へ遊びに行かれる方もいる。		

グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動スーパーの販売を取り入れ自分のお金で好みの物、必要な物を購入して頂いている。基本は個人のお金は事務所で預かり、希望の物があれば購入している。小銭をご自分で管理されているかたもある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日の時に誕生会の写真を撮り家族様に葉書きを送り誕生会の報告をさせて頂いている 字が書ける方には家族様へメッセージも添えている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こまめに掃除を行い、換気や温度管理には注意を払っている。月に合わせて季節感を感じられる様な飾り付けも行っている。時間がゆっくり流れるように職員も落ち着いてケアにあたっている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を配置し何処にでも座れる様に気を配っている。ソファで利用者同士で編み物をされていることもある 両方の棟を行き来でき顔馴染みの方に会いに行くことができる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を自宅から継続して使ってもらっている。自宅と同じような配置を心掛けている。家族との写真も飾って心地よく過ごさせておられる		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干しや盛り付け等出来る事は一緒に行っているため、動線に障害物を置かないように気を付け、環境整備に気をつけている 本人様のできること、できていくことを大切にしている		